

▼減らない農機具の盗難

▼二重三重の防犯対策を基本に

農機具の盗難が多発している。NOSA I 全国（全国農業共済協会、高橋博会長）は、農機具共済を実施する39都府県のNOSA I 団体を対象にした農機具盗難の調査結果をまとめた。2013年度は241台の被害が発生し、支払共済金は6億9千万円に上る。09～13年度の被害は、倉庫などに格納中の盗難が6割近い。倉庫の施錠だけでなく、エンジンキーを抜いて別に保管するなど防犯対策を徹底する必要がある。

▼最も多いトラクター被害

09～13年度の累計では、機種別でトラクターの盗難が509台と最も多く、コンバインが18台、トラクターのアタッチメントや小型農業機械などが268台、田植機2台となった。

地域別では、特に関東の被害が突出している。しかし、11年度まではほとんど被害がなかった東海や近畿で12年度以降被害が急増するなど油断は禁物だ。

被害に遭った797台の分析では、倉庫などに格納中の被害が457台（57・3%）で、圃場での盗難の163台（20・5%）を大きく上回る。倉庫を施錠していない例が270台と多いものの、施錠していた例でも110台が被害に遭った。圃場での被害は、エンジンキーを抜いていたケースがほとんどで163台中135台に上る。

▼倉庫への格納は厳重に

施錠していた倉庫からの被害も多く、一つの対策だけで盗難防止は難しいのは明らかだ。農林水産省生産局農産部技術普及課では「基本的な対策のほか、二重三重の対策を講じる必要がある」と強調する。

圃場に放置せず、施錠できる倉庫などへの保管を基本とし、破壊されやすいハウスには保管しない。倉庫に入れたトラクターからはエンジンキーを外し、見つかりにくい場所に保管する。

盗難件数の多いトラクターは、格納庫の奥に止めて軽トラックなどを前に置き、持ち出しにくくする対策も有効という。警報器やハンドルロック、センサーライトなど市販の防犯用品の利用も組み合わせた。

▼窃盗犯の存在を意識して

日本農業機械化協会が運用する「農業機械盗難被害情報共有システム」は、被害農機の型式や機体番号などを農林水産省や警察などで共有する。盗難に遭った場合は、警察のほか販売店にも連絡しておく、盗難農機の発見や転売を防ぐ可能性が高まる。

農機具共済を実施する各地のNOSA I 団体では、広報紙やパンフレット、ポスターなどを通じた注意喚起に努めている。農機具共済の加入更新時など機会を捉えて周知するほか、盗難防止看板を作成・設置したNOSA I もある。

高額な農機具の盗難は、経営への打撃が大きく、営農の継続にも支障を来しかねない。格納中の農機を狙う窃盗犯の存在を常に意識し、万全の対応を図りたい。